

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成29年5月31日	評価結果市町村受理日	平成29年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の相談内容を良く聞いて差し上げ、早期に解決するようにスタッフ一同心掛けています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201263-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年7月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ライフケア北倶楽部」は、商店が並ぶ幹線道路に面した旧寿司店を改造して開設された2階建て1ユニットの事業所である。高齢者が暮らしやすいよう手摺りを多く設置し、滑り止め用に加工した階段の手摺りも両サイドにあり、7部屋がある2階から、居間などがある1階への移動も安全に昇降できるように配慮されている。台所からリビングで寛ぐ利用者を見ながら調理や会話が出来、楽しそうな笑い声が聞こえる空間になっている。町内会等との関係では商業地区であるメリットをいかし、災害避難時に近隣のコンビニエンスストアに利用者の受け入れを依頼している。ストアでは食料品やトイレの利用など、安心して避難できる場所になっている。利用者の多くは、意思疎通が可能であり、長く勤めている職員も多く、難しい場合は過去の事例や表情で読み取ることも容易にできている。職員はミーティングで2週間毎に全員のモニタリングを作成し、細やかな介護計画ができており、日々の記録と運動して目標の達成記録で次への見直しにつなげている。利用者が散歩や買い物以外にも戸外へ出る機会を作るため、冬期間でも外食ツアーや季節の行事を取り入れて肌で季節を感じられるよう支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本の理念に基づきスタッフ間ですぐに話し合いをしながら共有している	法人の基本理念とホーム独自の理念を毎月2回のミーティングで確認し、日々の介護に反映されているかを確認している。理念はスタッフルームとリビンググループに掲示してある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内の行事に参加させていただき、施設での行事にも参加していただけるよう働きかけている	区民センターで行われるイベントやカラオケ大会に行ったり、連合町内会のお祭りにホームの参加者用の席を用意して頂くなど、地域住民と良好な関係が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にも地域の方の参加を呼びかけ、認知症の理解をしていただく様に話し合います		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、地域包括支援センター方と意見交換し支援に役立っています	運営推進会議は2か月毎にテーマを決めて開催され、事業所からの報告も行われている。家族の活発な参加はみられないが、議事録は読みやすく、家族にも送付している。	利用者家族の参加が少ないため、毎回の議題やテーマに関心のあるものにするなどし、今後も継続して呼びかけ参加メンバーを増やすことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定例の管理者会議に参加し、密に情報交換を行い連携するように努めています	市区との連絡は本部で行っているが、保護課の職員が来訪したり、書類提出で区に出向いている。区の管理者会議に出席し、医療機関との取り組みを確認している	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体として拘束排除宣言を行っているが悩んだときは事例を確認する等、不明な点はスタッフ間や上司と相談をしている	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる11項目の具体的な行為も職員が熟知している。ミーティング時にも確認しているが、今年度の研修計画に身体介護に関する研修を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース等の事例を交えながらスタッフ内で常に話し合いをしている		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者様で後見人制度を利用している方はいませんが、必要時に相談ができるよう情報収集に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本部担当者が事前に説明を行った上で契約頂き、料金変更等の際は早めに説明をし、ご了解をいただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、参加が少ないため行事や面会の時に意見交換を行っています	毎月、利用者毎にホームから写真付きのお便りを送付して日常生活状況を報告している。家族との対応も日常観察記録に記録してスタッフ間で情報を共有をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回本社にて定例会議を行い意見交換や提案をし、その内容を各現場へ周知するようにしています	月2回のスタッフミーティングで活発な意見が出されており、発言の機会が多い。年に一度、本部の役職者との個人面談もある。職員は各自の役割分担を持っており、発注、レクリエーション、買い物などがあり、職員意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生活環境や能力をよく把握したうえで雇用条件を定め、また個々にあったスキルアップを提案している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の行事計画を立てる際、各担当を決めて自主性や責任感を養っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加して、交流を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と本人の要望を聞き、メンタルケアを重視した支援を心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談に出来る限り添うように心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に沿うような自立を目指し、出来ない事のみ支援するようにしています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ないことは支援し、出来る限り本人にしていただき、自分らしく生活して頂きます		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の要望を聞き、本人の負担にならないように心掛けています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいたところが、施設に近い場合は外出した時に、お声をかけながら昔を思い出していただくようにしています	以前住んでいた場所に行って昔を思い出してもらったり、友人の来訪や宗教関係のつながりで新聞を届けてもらっている。親族の墓石を探して現地に行く計画もある。数名は馴染みの医院への通院を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係も配慮しながらお互い関わりあっているように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も状況把握の為、連絡を持ち必要に応じて支援しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り要望を聞き、小さなこともスタッフ同士で話し合いをしています	利用者の多くが意思疎通ができるが、難しい場合は表情で意思を読み取って本人の望むタイミングで介助をしている。サービス計画書に本人の意向が言葉として記録されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のニーズの合わせた支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを通じて精神的、身体能力にあった支援を行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護方針が共有出来るように、スタッフミーティングに必ず参加しケアに反映している	2週間毎にミーティングで利用者全員のモニタリングを行い、3~6か月毎の見直し時に評価している。介護計画書に目標の達成度の記録が分かり易く書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時には必ず、介護記録に目を通し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人の要望を把握し、外出外泊の調整をしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の状態(精神面・身体面)を見ながら、町内等社会への関わりを増やそうと考えています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態を考慮しご本人の負担にならないように協力医療機関と調整を行ったり、又は今までの関係を切らないように同じ医療機関にかかられている方もいらっしゃいます	月2回の往診で内科の医師が訪問している。他科の受診や、馴染みの医院への受診は職員が同行し、日報に記録し受診結果で特変があれば家族へ連絡し詳しく説明をしている。	

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かなことでも気が付いた時は、スタッフ間で話し合い必要に応じ、看護師や主治医に連絡を取ります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療、リハビリ計画を立てていただく際、詳細な情報提供や連携を行い、協力関係を築いています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を取りまたご家族と相談をしながら、可能な限り施設での対応を行っています	入居時に重度化した場合の対応に係る指針を説明しており、重度化した場合の状況に応じて再度説明し、取り交わしの書類に記名押印してもらうようになっているが、今後は入居時の説明段階で同意書を取り交わす旨の検討を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は常に話し合い、その手順についてもスタッフルームに掲示しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には利用者様も参加し、3カ月に1回程度、消防署立ち合いは年1回程度行っています。また火災だけではなく、防災・防犯についても話し合いをしています	災害時には、近隣コンビニへ協力をお願いしており、非常用持ち出し袋を用意している。年一度の消防署員立ち合いの訓練の他、自主訓練も年に数回行っている。災害時の町内の相互協力も検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりを持ちながら、対応し個人を尊重するように心掛けています	外部研修で言葉遣いなどを学び、気になる時はミーティングで確認している。申し送りや個人的な確認はスタッフルームで行い、また居室で聞くなどしてプライバシーに配慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を損なわない支援を心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を尊重し、可能な限り希望にそった支援を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装にしたり、行事では浴衣を着たり、毎朝の髪の手入れをしています		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様全員同じ食事を提供しているが、中でも肉が苦手な方には野菜を多くしたり、また柔らかいご飯を希望される方には軟食を提供し食事が減らないようにしています	献立は本部が作成し、栄養バランスのある食事を提供している。誕生日には好みの料理と手作りケーキでお祝いしている。手巻き、ちらし、のり巻などの酢飯が好みで、利用者も料理作りに参加して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やお水を提供しても水分摂取拒否がある場合はジュースをお出しすることで水分摂取をして頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがいをさせて頂いており、その際見守りが必要な方は見守りとお声掛けをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	加齢によりご自分で排泄のコントロールが難しい方にはパットやオムツを履いて頂いていますが、可能な限り排泄のお声掛けを行い残存能力の維持に努めています	半数の方は自力で排泄ができ、布パンツとパットで過ごし、夜間もトイレに誘導している。声かけや介助が必要な場合は記録で把握し、早めの声かけで自立面の維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄介助の必要な方の排便頻度はスタッフ全員で共有しており、排泄の間隔が空いてる方はお腹のマッサージをしたり排泄を促しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯を希望される方はそのご希望になるべくそえるように調整し、またご自分でお着替えなど準備できない方はスタッフと共に希望される服を準備して頂いています	週2回の入浴日を決めて、午前・午後の時間帯に全員の入浴を支援している。入浴を嫌がる時は声かけを工夫したり、体調の状態を見て清拭を行うなど、利用者の意向や状態に沿って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで眠そうにされている方などはお声掛けし、お部屋で休まれています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わったり量の増減があった場合はその後の体調の変化を職員全員で把握に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体や頭を動かすレクリエーションや昔の映画上映会など行っています		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出や外食、夏のお祭りなど地域行事にも参加をしています	散歩がてら周囲の店で買い物をしたり、涼しい時間帯に玄関前のベンチで外気浴をしている。年間行事では、花見や紅葉見物、白い恋人パーク、回転寿司など交代で出かけている。冬期も大型店舗で買い物や好きな料理を選び、年間を通して外出の機会を取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはご本人の状態や希望を尊重し支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やお友達からの電話やお手紙はプライバシーを尊重し必要最低限の確認のみさせていただきます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングではテレビの音量を上げすぎないようにしたり、また温度管理にも注意し利用者様全員がなるべく快適に過ごせるように努めています	居間の大きな窓から外の様子を感じることができ、生活感がある。壁には紙細工の飾りや行事などの写真が貼ってあり家庭的な温かい雰囲気になっている。改造型の共用空間は浴室への段差や階段の上り下りが身体的な機能維持につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングではソファ・テーブルを数台用意し気の合う同士ご自由にお席に着けるよう努めたり、またテレビも2台用意しているためご自分の希望されるチャンネルを見られる様配慮しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の希望を尊重しているが、転倒やケガを起こす可能性が高い方には福祉機器を設置させて頂いており、居心地よく過ごせるとともに事故が起きないように配慮しています	改造型で居室の違いもあるが、馴染みの家具類や小物類、仏壇、冷蔵庫を持ち込み、人形、ぬいぐるみ、家族の写真などがあり、本人が過ごしやすい飾り付けと配置になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内の掲示物を貼ったり、手すりを設置することによりわかりやすさと安全に配慮した自立生活が送れるよう工夫しています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア北倶楽部

作成日：平成 29年 8月 1日

市町村受理日：平成 29年 8月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者ご家族様の参加が少ないため、毎回の議題やテーマを関心のあるものにするなどし、今後も継続的に呼びかけメンバーを増やすことを維持していきたい。	些細な情報でも取り入れられるよう色々な手法を用いて、一人でも多くの意見を集約し、間接的にでも参加していただけるようにする。	ご家族様には施設の方からお声をかける。細かなことにも耳を傾け運営推進会議の議題とする。	6ヶ月
2	35	消防訓練で、町内(近隣住民等)の参加が無いこと。	町内の班長、防災部長にも参加をお願いする。	町内の班長、防災部長にお会いして避難訓練の参加をお願いしました。早めに分かれれば、日にちを合わせ参加して下さるとの話でした。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。